

ハリガネムシに寄生されたカマキリ 水面の反射光が誘導

水辺に向かう謎解明

岩谷准教授(弘大)らグループ

ハリガネムシに寄生されたカマキリが、自分から水辺に引き寄せられるように向かう不思議な行動の仕組みを、神戸大学や弘前大学などの研究グループが世界で初めて解明した。研究内容は21日(現地時間)発行の米科学誌「カレント・バイオロジー」に掲載される予定。
(福士和久)



岩谷准教授

解明したのは神戸大学大学院理学研究科の佐藤拓哉准教授や弘前大学大学院理工学研究科の岩谷准教授らの研究グループ。岩谷准教授はカマキリの行動計測装置などを担当した。

究によると、その鍵を握るのは「水平偏光」。波の振動が水平方向に偏っている光で、水面からの反射光に多く含まれる。

実験の結果、寄生されたカマキリは、寄生されていないカマキリより、強く水平偏光に引き寄せられることが分かった。一方で水の有無、光の強弱はさほど関係がなかった。

水平偏光は水辺の水深が深く、水底が暗いほど多くなる性質がある。このため「繁殖のため、水が枯れにくい水辺にカマキリを誘導しているのでは」との仮説

も浮かび上がるといふ。ただ、ハリガネムシがカマキリの体にどのように働き掛けて誘導するのは分かっておらず、今後の研究課題となる。

ハリガネムシは一般に細長く、体が堅い虫でカマキリなどに寄生する。カマキリの尻を水面につけると中から出てくる現象が知られている。

岩谷准教授はロボットなどが専門。「面白いことを見つけていくことができるともハッピー。研究に声を掛けてもらって、とてもうれしい」と話していた。

※この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。

東奥日報社に無断で転載することを禁止します。

[問合せ先]弘前大学理工学研究科

E-mail:r_koho@hirosaki-u.ac.jp